

第 1 回有料化財源活用方法検討ワーキングチームにおける議論について

【開催日時】

○ 平成 22 年 6 月 17 日（木） 9：30 ～ 12：25

【委員からの主な発言】

1 有料指定袋の価格について

○ 原委員

- ・ 指定袋の価格は現状維持とすべき。審議会で議論し、市民との意見交換も十分行った上で決めたものであることから、簡単に上げ下げするべきではない。
- ・ 状況を見ながらごみの減量に繋がる取組を併せ技で考えていくことが重要

○ 酒井委員

- ・ リバウンドに気をつける時期に来ていると考えられるので、その状況で価格を下げるとより一層リバウンドが発生する可能性がある。

⇒ 議論を受け、各委員とも、価格はそのまま維持すべきであるとの結論で一致

2 有料化財源活用事業関係者へのヒアリングについて

○ 山内委員

- ・ 食の無駄を減らすことは重要。京都の文化でもあり、そういった意識を掘り起こす事業も必要ではないか。

○ 郡嶋座長

- ・ 市収集による資源分別もよいが、コミュニティ単位での回収も組み合わせで多様化を図ることにより、地域の取組の活性化を図ることが必要
- ・ 地域での啓発については、取り組んでいる人達の具体的内容を地域で共有して広めることが重要。それをサポートする支援が必要
- ・ 市民に理解してもらい、取組の一員になってもらうためには、広報、見える化をもっときめ細やかに充実していくことが必要
- ・ 小さな取組まで支援していくためには、人を育てることへの支援を通じて、人材の掘り起こしと能力の底上げが必要

○ 原委員

- ・ 環境活動への支援は色々なメニューがあると思うが、具体的にどういう支援が必要なのかを、地域から吸い上げて整理した上で議論することが必要
- ・ マンパワーの育成が重要

⇒ 有料化財源活用事業の内容や課題について、問題意識を共有

3 市民アンケートについて

○ 酒井委員（書面にて）

- ・ Q5-1で、有料化財源を活用した事業への意向確認に関する設問について、既存の取組へのニーズだけでなく、新たに考えられる取組（例：リサイクル施設の整備による温暖化対策）への意向を問う設問があってもいいのではないかと。

○ 郡嶋座長

- ・ Q5-1で、有料化財源を活用した事業への意向確認に関する設問について、家庭系有害廃棄物を回収する取組事例を加えてはどうか。
- ・ 情報入手ルートとして、どういう広報媒体を市民が望んでいるのかを聞くことも必要

⇒ 議論を受け、アンケート調査票を修正

（参考）今後の予定

- ・ 6月下旬から7月上旬にかけて市民アンケートを実施
- ・ 第2回ワーキングチーム 7月29日（木）13：30 ～